

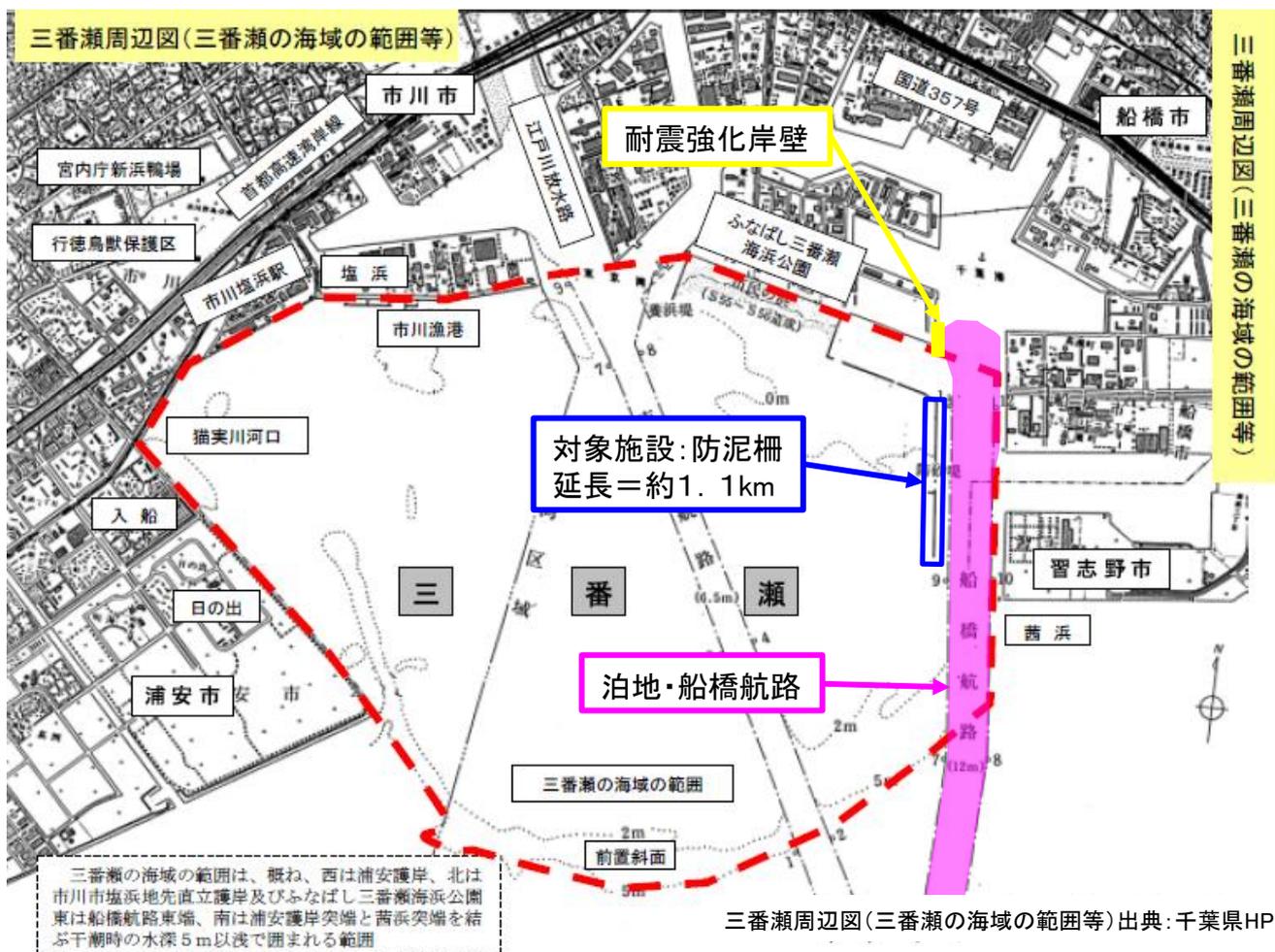
船橋航路付帯施設（防泥柵）の補修について

1. 事業の目的

船橋航路付帯施設（以後、防泥柵と記載）は、三番瀬から泊地及び船橋航路への土砂の流出を防ぐ目的で千葉県企業庁により建設され、昭和 45 年に完成している。防泥柵は鋼矢板の腐食が進み腐食孔が開いているなど老朽化が著しい状況である。今後、防泥柵の老朽化が更に進んだ場合、防泥柵が崩壊して三番瀬の浅瀬の土砂が泊地・船橋航路に流出し、埋没することが懸念されている。

なお、防泥柵に隣接している泊地及び船橋航路は図-1 に示すとおり、平成 26 年に共用開始した耐震強化岸壁へ繋がる船舶の航行ルートであり、泊地及び船橋航路が埋没した場合、災害時の緊急物資の輸送に支障を来す恐れがある。

よって、既存の防泥柵が崩壊する前に補修を行うことを検討している。



2. 補修計画

(1) 施設の現況

防泥柵の構造は図-2 に示すとおり、二重矢板式の構造である。

当該施設は老朽化が進み、上部コンクリートの劣化が激しい(写真-1、2 参照)。また、防食対策がほどこされていないため、鋼材の腐食が進んでおり、完成時の肉厚 8.0mm に対し 2013 年の測定結果では平均で 4.0mm 前後にまで減少している。なお、腐食による開孔も存在(写真-3、4 参照)している。鋼矢板の腐食状況は、三番瀬側、泊地・船橋航路側とも、同程度の状況である。

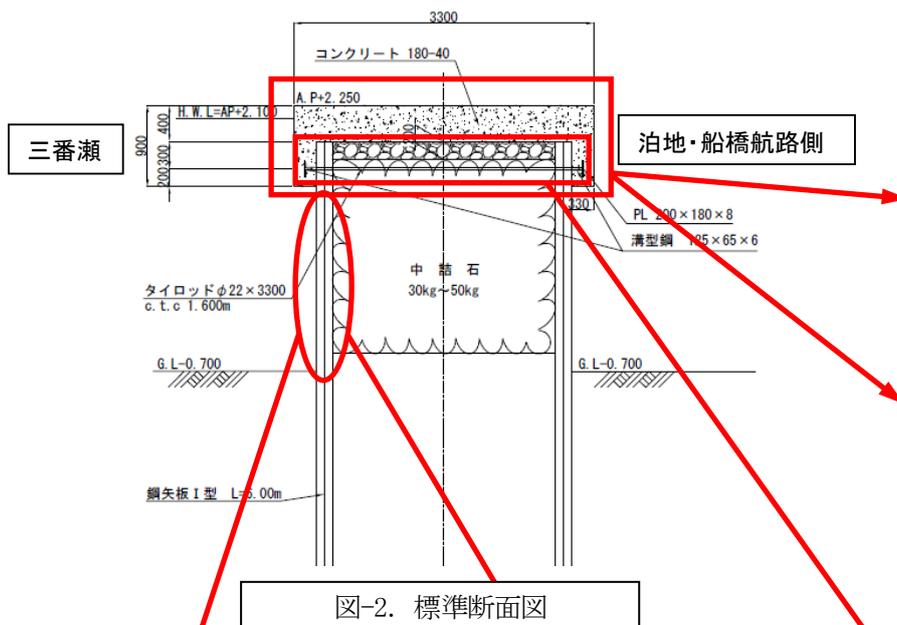


写真-1. 中詰石露出状況



写真-2. 上部工欠損状況



写真-3. 鋼矢板腐食状況



写真-4. 鋼矢板腐食状況



写真-5. タイロッド破断状況

(2) 今後の補修スケジュール (案)

平成 28 年 6 月～ : 補修方法の詳細及び施工方法の検討

平成 29 年 4 月～ : 補修工事着手

なお、補修完了までには 3～5 年程度かかる見込み。補修工事の実施時期は海苔の養殖に影響を与えない時期の 4 月～8 月末までを予定している。

また、施工が生物の生息基盤に与える影響を把握するため、生物が多く生息している冬季に生物調査を実施することを予定している。